



おくすり通信

No. 65 ワクチンの接種間隔 ※5/31 内容修正しています

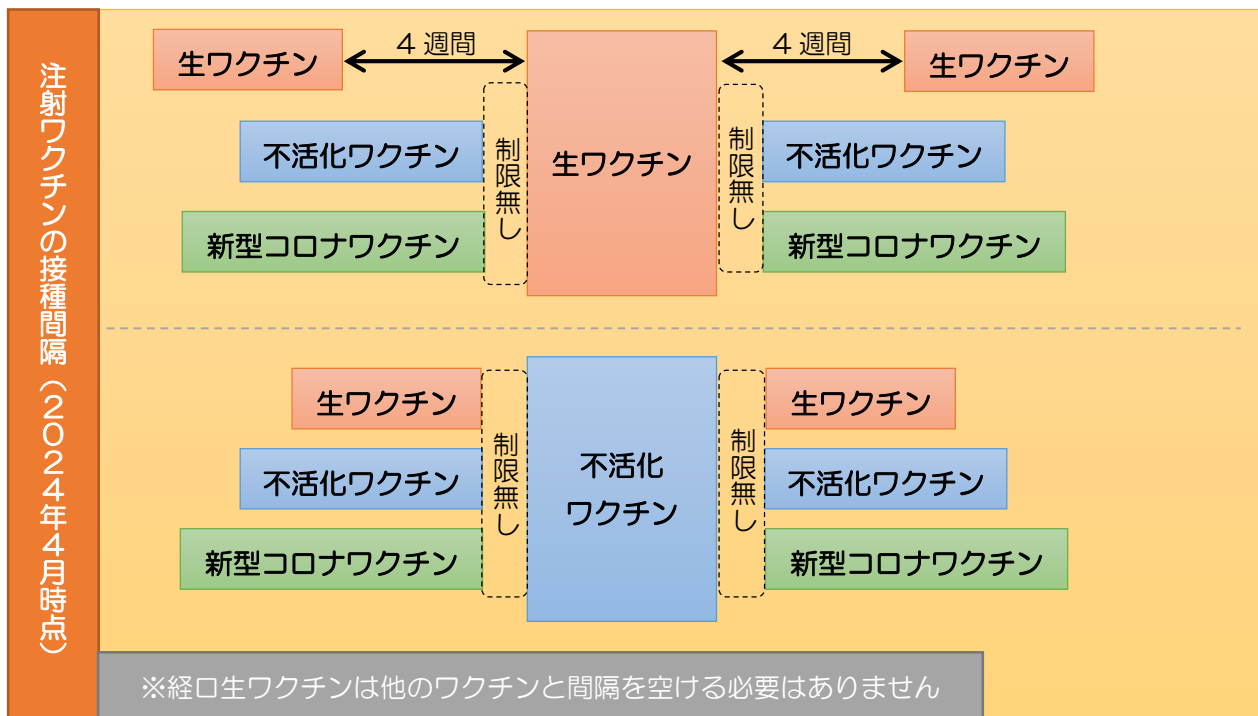
こんにちは、薬剤科です。今回はワクチンの種類について解説しました。ワクチンは種類に応じて接種間隔が異なります。異なるワクチン同士の接種間隔について解説いたします。

《製剤の特性として必要な接種間隔》

ワクチンの接種間隔はワクチンの種類によって異なります。2020年10月から、注射生ワクチン同士は27日以上あけ（最短で4週間後に接種可能）、それ以外は間隔をあける必要は無いとされました。

注射生ワクチンは自然免疫と同じ機序のため、接種後はウイルスの増殖を抑える物質（インターフェロン）が作られます。注射生ワクチンの効果は体内でワクチンウイルスが増殖することで発揮されるので、他の生ワクチン接種でつくられたインターフェロンによりウイルスの増殖が抑制されると効果が減弱する恐れがあります。そのため生ワクチン同士の接種は間隔をあける必要があります。

不活化ワクチンはウイルスの増殖を伴わないためインターフェロンの影響を受けにくいと考えられ、間隔をあけずに接種することができます。



《新型コロナワクチンとの接種間隔》

今までは新型コロナワクチンに関しては別に、他のワクチンとは2週間あけることとされていましたが、現在は制限無く接種できるようになりました。ただ、日本小児科学会では、注射生ワクチン接種後は新型コロナワクチンの接種を4週間あけることが望ましいとしています。注射生ワクチンは接種後2週間頃にはワクチンウイルスが体内で増殖しています。その時期に新型コロナワクチンを接種すると免疫干渉が起こり生ワクチンの効果が減弱する恐れがあるため、4週間あけることが望ましいとしています。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。